

# 令和4年度全国学力・学習状況調査

## <長崎県の結果>

### 調査の概要

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 実施対象

県内国公私立学校の以下の学年の、原則として全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、  
特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、  
特別支援学校中学部第3学年

#### 3 調査内容

##### (1) 教科に関する調査...国語、算数・数学、理科

調査問題では、次のとを一体的に出題。

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

##### (2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### 4 調査期日 令和4年4月19日(火)

#### 5 調査実施校数及び児童生徒数

##### (1) 実施校数471校(調査対象者の在籍する学校の総数476校)

(小学校:305校、中学校:164校、義務教育学校:2校)

##### (2) 参加児童生徒数

小学校6年生 10,541人

中学校3年生 9,765人

# 全国学力・学習状況調査「結果の概要」

## 1 教科に関する調査

### 1 平均正答率及び平均正答数

(上段：平均正答率 下段：平均正答数)

県全体 (公立小・中・義務教育学校、県立中・特別支援学校)								
小学校			中学校			県立中学校(3校)		
教科	本県	全国	教科	本県	全国	教科	本県	全国
国語	64	65.6	国語	68	69.0	国語	88	69.0
	9.0/14	9.2/14		9.6/14	9.7/14		12.3/14	9.7/14
算数	62	63.2	数学	48	51.4	数学	81	51.4
	9.9/16	10.1/16		6.8/14	7.2/14		11.3/14	7.2/14
理科	62	63.3	理科	48	49.3	理科	70	49.3
	10.5/17	10.8/17		10.0/21	10.4/21		14.7/21	10.4/21

<参考1> 前回(令和3年度)の調査結果

(公立小・中・義務教育学校、県立中・特別支援学校)

校種	教科	本県	全国
小学校	国語	63	64.7
	算数	68	70.2
中学校	国語	63	64.6
	数学	56	57.2

<参考2> 令和元年度小学校6年生(現中学3年生)の調査結果

校種	教科	本県	全国
小学校	国語	61	63.8
	算数	65	66.6

## 2 結果の総括

### (1) 県全体の平均正答率

小学校では、すべての教科で全国平均を1ポイント程度下回った。

中学校では、国語、理科は全国平均を1ポイント程度下回り、数学は全国平均を3.4ポイント下回った。

### (2) 各教科における課題(太字は令和3年度に設定した重点課題)

		課 題	問題番号	平均正答率		
				全国	本県	自校
小 学 校	国 語	条件に合わせて書く	3二	37.7	38.7	
		表現の効果を考える	2三	59.2	56.8	
	算 数	統計データの特徴を読み取り判断する	3(2)	63.9	59.9	
		二つの数量の関係について考察する	2(3)	21.4	19.1	
	理 科	実験結果を基に分析、考察し、考えを記述する	1(4)	76.1	73.3	
		より科学的な考えにするために検討・改善する	2(3)	62.8	60.0	
中 学 校	国 語	複数の情報を整理し、条件に合わせて書く	2三	46.5	45.9	
		話の展開を捉え、条件に合わせて書く	3四	73.8	72.2	
	数 学	判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	7(1)	44.0	43.9	
		問題解決の方法を数学的に説明する	8(2)	38.4	37.3	
	理 科	知識を関連付けて理解する	7(1)	35.9	34.0	
		他者の考えについて、検討・改善する	2(3)	28.5	27.1	

## 2 質問紙調査

### 【道徳性、自己肯定感等】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	R3			R4			R3			R4		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 人の役に立つ人間になりたい	96.1	95.5	+0.6	95.8	95.1	+0.7	96.6	95.0	+1.6	96.4	95.0	+1.4
2 いじめはどんな理由があってもいけない	96.9	96.8	+0.1	97.1	96.8	+0.3	97.3	95.9	+1.4	97.4	96.4	+1.0
3 自分には、よいところがある	80.1	76.9	+3.2	81.7	79.3	+2.4	76.8	76.2	+0.6	80.2	78.5	+1.7
4 将来の夢や目標を持っている	81.9	80.3	+1.6	81.7	79.8	+1.9	70.4	68.6	+1.8	69.5	67.3	+2.2

- ◇ 道徳性については継続的に全国平均を上回っており、「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は、令和3年度に引き続き95%を超えている。
- ◇ 「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度に引き続き全国平均を上回っており、自分自身のことや自分の将来について、肯定的に捉えている。

### 【学習態度と生活習慣等】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	R3			R4			R3			R4		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる	76.5	78.2	-1.7	75.2	77.3	-2.1	80.3	81.0	-0.7	77.5	79.2	-1.7
2 家で自分で計画を立てて勉強をしている	73.8	74.0	-0.2	69.9	71.1	-1.2	63.9	63.5	+0.4	58.6	58.5	+0.1
3 授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)	62.6	62.5	+0.1	57.1	59.4	-2.3	31.3	41.8	-10.5	26.1	35.2	-9.1
4 朝食を毎日食べている	95.2	94.9	+0.3	94.5	94.4	+0.1	95.1	92.8	+2.3	94.1	91.9	+2.2

- ◇ 「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度に引き続き全国平均を下回っている。
- ◇ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校においては全国平均を下回り、中学校においては全国平均とほぼ同じ状況である。
- ◇ 「授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)」と回答した児童生徒の割合は、小学校においては令和3年度よりも減少し、全国平均を下回っている。中学校においては令和3年度に引き続き全国平均を大きく下回っている(9.1ポイント)。

【地域や社会との関係等】

調査項目	小 学 校					中 学 校						
	R3		全国比	R4		全国比	R3		全国比	R4		全国比
	本県	全国		本県	全国		本県	全国		本県	全国	
1 今住んでいる地域の行事に参加している	本県	60.7	+2.6	本県	53.6	+0.9	本県	47.5	+3.8	本県	41.9	+1.9
	全国	58.1		全国	52.7		全国	43.7		全国	40.0	
2 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	本県	55.2	+2.8	本県	51.0	-0.3	本県	50.5	+6.7	本県	47.9	+7.2
	全国	52.4		全国	51.3		全国	43.8		全国	40.7	

◇ 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度に引き続き全国平均を上回っている。

◇ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合は、中学校において全国平均を7.2ポイント上回っており、地域との良好な関係性、地域や社会への関心の高さがうかがえる。一方、小学校においては全国平均とほぼ同じ状況である。

【ICT機器の活用等】

調査項目	小 学 校					中 学 校						
	R3		全国比	R4		全国比	R3		全国比	R4		全国比
	本県	全国		本県	全国		本県	全国		本県	全国	
1 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用している	本県			本県	73.5	-2.6	本県			本県	71.1	-0.6
	全国			全国	76.1		全国			全国	71.7	
2 1日当たり1時間以上スマートフォンやICT機器を勉強のために使っている(月～金)	本県	18.4	-1.5	本県	20.5	-1.1	本県	17.3	-2.2	本県	16.1	-1.6
	全国	19.9		全国	21.6		全国	19.5		全国	17.7	
3 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	本県	95.4	+0.9	本県	95.1	+0.7	本県	95.8	+2.6	本県	94.5	+1.9
	全国	94.5		全国	94.4		全国	93.2		全国	92.6	

◇ 「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合は全国平均を上回っている。一方、学校でPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している割合は、小学校で2.6ポイント、中学校で0.6ポイント全国平均を下回っている。

# 3 各教科の状況

## 小学校国語

### 3二 条件に合わせて書く 重点課題

- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる問題です。

3 島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことになりました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子をろうがし、各学級にしようかいいしたという活動がすばらしいと思いました。

この話を聞き、五年生の時にさばい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいしたいです。

【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子を、ア、ろうがして、各学級にしようかいいしたいです。

この話を聞き、五年生の時にさばい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを、イ、はんせしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もウ、したむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいしたいです。

二 島谷さんは、川口さんと【文章2】を読み合い、感想を伝え合いました。次の【伝え合いの様子の一部】をよく読み、あとの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

島谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。  
川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で行ったことをもとにしているからだね。  
島谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。  
川口さん 最後の段落がいいね。なぜかという、最初の段落の内容をより具体的に書いてあるから、今年ががんばろうとしていることがくわしく伝わってきたよ。  
島谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。  
（伝え合いが続く）

（問い） 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 【文章2】のよさを書くこと。
- 【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

#### <状況と課題>

本問では、「B 書くこと」の「共有」に関する指導事項（文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること）が取り上げられています。本調査で、この指導事項が取り上げられたのは、初めてのことで、正答率は38.7%、無答率は12.6%であり、継続課題と捉えています。

解答の状況をみると、【文章2】から言葉や文を取り上げて書いていますが、【文章2】のよさについて書いていない児童が3割程度いました。【伝え合いの様子の一部】の内容を踏まえるなどして、【文章2】のよいところを見付けることができなかつたと考えられます。

#### ☆正答率 (%)

全国	37.7
本県	38.7
市町	
自校	

#### <自身の授業改善のポイント>

## 2三 表現の効果を考える

・表現の効果を考えることができるかどうかをみる問題です。

2

森田さんの学級では、不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合うことになりました。森田さんは、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、気になるところにふせんをはっています。次は、「物語のこれまでのあらすじ」と「物語の一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語のこれまでのあらすじ】

学校の帰りに、自分と同じ名前のH.I.R.O.K.I模型店を見つけたぼく。一步その店の入口に近づくと、ドアが音もなく開き、カウンターのすみに座っている老人が、やけになれなれしく「よお。」と手をあげた。店の中は、宇宙船などの模型で占められていた。



森田さん

三 同じ学級の山村さんも、「銀色の幻想」を読み、すいせんする文章を書いています。次の【山村さんの文章】のBの中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【山村さんの文章】

この物語は、主人公の「ぼく」が自分と同じ名前のもけい店で「老人」と出会うことから始まる。「老人」は、未来の「ぼく」のすがたかもしれないのだが、読者にそう思わせる表現が文章全体に散りばめられている。そのため、読み進めるうちに、物語の世界にどんどん引きこまれていく。そして、最後の一文「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよんでいるだけだった。」は、B

正答

2

- 1 色の表現を使い、季節が変わったことを印象づけている。
- 2 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象づけている。
- 3 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行った不思議さを印象づけている。
- 4 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象づけている。

### <状況と課題>

「表現の効果を考える」とは、具体的に想像した人物像や物語の全体像と結び付けながら、様々な表現が読み手に与える効果について考えることです。本問における正答率は56.8%であり、全国平均より2.4ポイント低く、課題と捉えています。

解答の状況をみると、3を選択している児童が約2割いました。空と風を表す表現を使っていることを捉えることはできていますが、物語の内容は、「ぼく」が宇宙に行った話ではないため、物語の全体像と結び付けながら表現の効果を考えることができなかつたと考えられます。

### ☆正答率 (%)

全国	59.2
本県	56.8
市町	
自校	

### <自身の授業改善のポイント>

3 (2) 統計データの特徴を読み取り判断する **重点課題**

・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することができるかどうかをみる問題です。

3 6年生のまなみさんの学級では、みんながもっと仲良くなるために、お楽しみ会をすることにしました。

(2) お楽しみ会のアンケート調査の結果から、2つの遊びを決めます。



選んだ人がいちばん多いビンゴと、その次に多いクイズに決めたらどうでしょうか。



選んだ人がいちばん多いビンゴをもとに、アンケート調査の結果を整理しました。一人一人が選んだ遊びを見てください。ビンゴとクイズに決めると、22番から24番の3人の希望が1つも通らないこととなります。



ビンゴとクイズに決めてしまうと、全員の希望が通ったことにはならないですね。



24人全員の希望が1つは通るように、2つの遊びを決めることができますよ。

今回のアンケート調査の結果では、24人全員の希望が1つは通るよう  
に、2つの遊びを決めることができます。

その2つの遊びは、どれとどれですか。右の一人一人が選んだ遊びを見  
て、下の1から4までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

1 クイズ

正答 ② 宝探し

3 しりとり

正答 ④ ビンゴ

一人一人が選んだ遊び

	選んだ遊び	
1	ビンゴ	クイズ
2	ビンゴ	クイズ
3	ビンゴ	クイズ
4	ビンゴ	クイズ
5	ビンゴ	クイズ
6	ビンゴ	クイズ
7	ビンゴ	クイズ
8	ビンゴ	クイズ
9	ビンゴ	クイズ
10	ビンゴ	宝探し
11	ビンゴ	宝探し
12	ビンゴ	宝探し
13	ビンゴ	宝探し
14	ビンゴ	宝探し
15	ビンゴ	しりとり
16	ビンゴ	しりとり
17	ビンゴ	しりとり
18	クイズ	宝探し
19	クイズ	宝探し
20	クイズ	宝探し
21	クイズ	宝探し
22	宝探し	しりとり
23	宝探し	しりとり
24	宝探し	しりとり

< 状況と課題 >

本問題の正答率は、全国平均より4ポイント低い59.9%でした。

解答の状況を見ると、希望者が多い順に「1 クイズ」と「4 ビンゴ」を選択している児童が約3割であり、「全員の希望が1つは通るように遊びを決める」という目的に応じて、データを読み取ることに課題がみられました。

正答率 (%)

全国	63.9
本県	59.9
市町	
自校	

< 自身の授業改善のポイント >

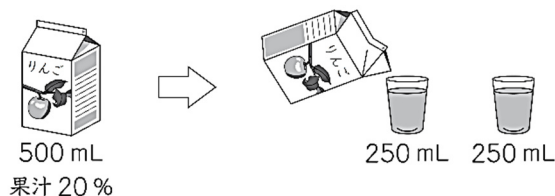


2 (3) 二つの数量の関係について考察する

・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題です。

2

- (3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。  
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は、500 mL の  $\frac{1}{2}$  の量です。

このとき、

上のアにあてはまる文を、下の 1 から 3 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になると、果汁の割合も  $\frac{1}{2}$  になります。
- 2 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になると、果汁の割合は2倍になります。

正答 ③ 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になっても、果汁の割合は変わりません。

< 状況と課題 >

本問の正答率は、全問題の中で最も低い19.1%でした。

解答の状況を見ると、果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になると、果汁の割合も  $\frac{1}{2}$  になると捉えている児童（1を選択）が約7割でした。

また、2(2)の、割合と基準量から比較量を求める問題の正答率も6割程度であり、「割合」についての理解に課題がみられました。

正答率 (%)

全国	21.4
本県	19.1
市町	
自校	

< 自身の授業改善のポイント >

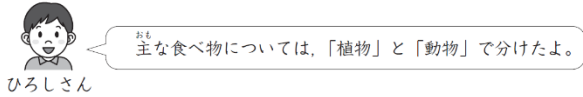
## 小学校理科





### 1 (4) 実験結果を基に分析、考察し、考えを記述する 重点課題

- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題です。





**1** ひろしさんたちは、ナナホシテントウのたまごを見つけました。

9月になり、ひろしさんたちは、ほかにも調べていたこん虫を下の表のように4つのグループに分けました。



		〈こん虫の育ち方と主な食べ物〉	
		育ち方	
主な食べ物	植物	<b>1</b> さなぎになる モンシロチョウ  幼虫：キャベツの葉など 成虫：花のみつなど	<b>2</b> さなぎにならない ショウリョウバッタ  幼虫：ススキの葉など 成虫：ススキの葉など
	動物	<b>3</b> ゲンゴロウ  幼虫：イトミミズなど 成虫：イトミミズなど	<b>4</b> シオカラトンボ  幼虫：イトミミズなど 成虫：ハエなど

(4) ひろしさんたちは、飼育したことがあるこん虫のカブトムシも、左の表に加えたいと考えています。カブトムシは、どこに加えればよいですか。下の〈資料〉をもとに、左の表の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

〈資料〉				
カブトムシの育ち方		→ 	→ 	→ 
おも 主な食べ物	食べない	落ち葉など	食べない	木のしる(樹液)など

#### 〈状況と課題〉

本問の正答率は、全国平均よりも2.8ポイント低い73.3%でした。

解答の状況を見ると、カブトムシがさなぎにならず、主な食べ物が植物であると考えた児童(2を選択)、カブトムシがさなぎになり、主な食べ物が動物であると考えた児童(3を選択)が合わせて21.2%いました。

カブトムシの資料を「育ち方」と「主な食べ物」の二つの視点で分析できなかったと考えられます。

#### ☆正答率 (%)

全国	76.1
本県	73.3
市町	
自校	

#### 〈自身の授業改善のポイント〉

## 2 (3) より科学的な考えにするために検討・改善する

- ・実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題です。

2

たろうさんたちは、紅茶を冷やしたり、あまくしたりして飲むために、水と砂糖水を冷とう庫でおおらせることにしました。つくった水よう液で、次のような実験をしました。

**【方法】**

①水、砂糖水、食塩水をそれぞれ、試験管に同じ量入れる。

②水、砂糖水、食塩水を冷やすための物をつくる。

③冷やすための物に、①を入れて冷やす。ときどき、試験管をとり出し、温度とようすを観察する。

実験の【結果】、水、砂糖水、食塩水の「こおり始めた温度」と「すべてこおった温度」は、下のようになりました。

【結果】	(水、砂糖水、食塩水を冷やした温度)	
	こおり始めた温度	すべてこおった温度
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-8℃

(3) はるとさんは、実験したあと、【問題】、【予想】を確認しました。

**【問題】**  
砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。

**【予想】** (はるとさんの予想)  
砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。

この【結果】からは、わたしの【予想】がちがっていることがわかったよ。【結果】の(ア)ということから考え直すと、【問題】に対するまとめは、(イ)といえるね。



はるとさんのことばの(ア)の中にあてはまるものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、(イ)の中にあてはまるものを、下の5から8までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- (ア)
- 正答 ① 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-8℃ですべてこおった
- ② 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった
- ③ すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった
- ④ 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった

- (イ)
- ⑤ 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである
- 正答 ⑥ 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い
- ⑦ 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い
- ⑧ 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

### <状況と課題>

本問の正答率は、全国平均よりも2.8ポイント低い60.0%でした。

解答の状況をみると、「砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。」という問題に正対した実験結果(ア)を選択できなかった児童(2、3、4を選択)が25.9%、問題に正対したまとめ(イ)を選択できなかった児童(5、7、8を選択)が29.4%いました。

実験結果を基に、最初の自分の考えを問題に正対するように検討・改善することに課題があると考えられます。

### ☆正答率 (%)

全国	62.8
本県	60.0
市町	
自校	

### <自身の授業改善のポイント>

2三 複数の情報を整理し、条件に合わせて書く **重点課題**

・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題です。

2 小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達を書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、で開まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かぎかっこ（「 」）でくくっていない。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

**【意見文の下書き】**

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なことが増えてよいく感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖母に、スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父は、今年に入ってから**豆がよつよつと大きくなる**を**導入**し、**作業の二倍を自動化**した。そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに**加え**、**草を取り除く**作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことを**喜ぶ**よる祖母に、他に取り入れているものはないか聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。**スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ**。しかし、祖母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちが意識しなければならぬことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

**【コメントの一部】**

**上野**  
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないだろうか。

**中村**  
私も同意です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

**【農林水産省のウェブページにある資料の一部】**

**スマート農業について**

**「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」**

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0<sup>®</sup>の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

**スマート農業の効果**

- ① 作業の自動化  
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化  
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用  
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

（農林水産省ウェブページによる。）

(注1) AI＝人工知能。  
 (注2) IoT（アイオーティー）＝自動車や電化製品などの様々なものがインターネットに接続されているシステム。  
 (注3) センシングデータ＝センサーを利用して計画・判別し、収集した情報。

<状況と課題>

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用し、自分の考えを書く問題です。本問の正答率は、全国平均に0.6ポイント及ばない45.9%であり、全く解答できなかった生徒の割合（無答率）は9.2%でした。

解答の状況をみると、引用する部分をかぎかっこ（「 」）でくくっていない、もしくは、引用箇所をそのまま抜き出すことができている生徒が約4割いました。自分の考えを支える適切な情報を取り出して書くことは身に付いてきていますが、適切な引用の理解に課題があると考えられます。

☆正答率（%）

全国	46.5
本県	45.9
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

**3四 話の展開を捉え、条件に合わせて書く**

- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる問題です。

**3** 次の文章は、「子どもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることによって生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔堀本裕樹・田丸雅智「俳句でつくる小説工房」による〕

(注1) 対峙<sup>たいし</sup>向き合<sup>む</sup>って立つこと。ならみ合<sup>ならみあ</sup>って対立すること。

(注2) 想像力<sup>さうぞうりき</sup>たるや<sup>や</sup>想像力<sup>さうぞうりき</sup>でい<sup>い</sup>たら。

〔堀本裕樹・田丸雅智「俳句でつくる小説工房」による〕

**四** —線部①「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

<状況と課題>

文学的な文章(小説)を読み、二つの条件(①「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかを書く②話の展開を取り上げて書く)を満たして書くという問題です。正答率は72.2%であり、多くの生徒は話の展開を捉えて書くことができていました。

一方で、無答率は14.3%と高い状況にあり、二極化の傾向がみられるため課題と捉えています。小説の文章量が多かったことに加え、個々の場面や描写から分かることだけに着目してしまい、各場面と登場人物の心情や行動等の描写を結び付けて考え、記述することができなかったものと考えられます。

☆正答率(%)

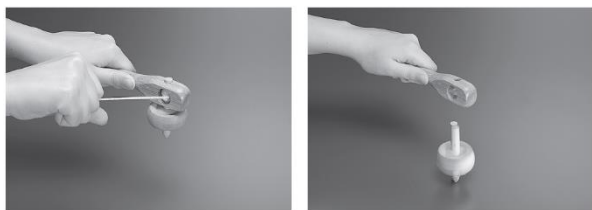
全国	73.8
本県	72.2
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

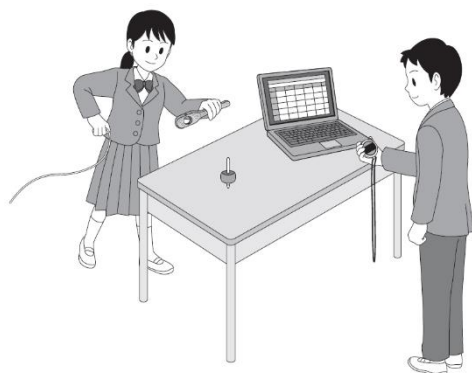
7 (1) 判断の理由を数学的な表現を用いて説明する **重点課題**

- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

7 学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなひもを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと葉月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使うかを検討することにしました。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 二人は、どちらのコマがより長い時間回りそうかを調べるために、2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間のデータを集めました。そして、それぞれのデータについてヒストグラムをつくり、それらと比較して考えることにしました。

図1 コマAが回った時間

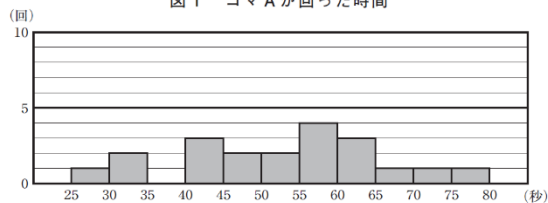


図2 コマBが回った時間

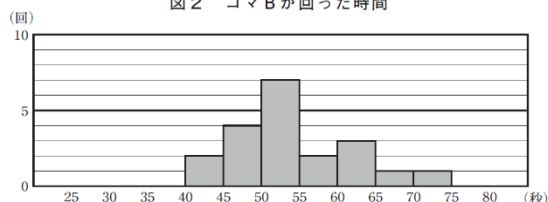


図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

- ア コマA
- イ コマB

<状況と課題>

2つのヒストグラムを比較してデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する本問の正答率は43.9%でした。解答の状況を見ると、ヒストグラムから読み取れることを記述してはいるものの、判断の根拠として適切ではないため誤答となった生徒の割合は37.5%と高い結果でした。データの分布の傾向を読み取る際、判断の根拠としてふさわしいか、分析した結果から得られる結論が妥当かなど、批判的に考察することにおいて課題がみられました。

☆正答率 (%)

全国	44.0
本県	43.9
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

## 8 (2) 問題解決の方法を数学的に説明する

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題です。

8 愛理さんは、総合的な学習の時間に環境問題について調べています。調べたところ、世界が目指す持続可能な開発目標(SDGs)として、17の目標の中に「気候変動に具体的な対策を」という目標があることを知りました。

愛理さんの学級では、この目標に対してできることがないかを話し合い、二酸化炭素の削減に取り組むことにしました。取り組みの参考にするために、ほかの学校の取り組みを調べたところ、となり町の中学校のホームページをみつけました。

### となり町の中学校のホームページにあった情報

私たちの取り組みの成果

参加した生徒数 86人

取り組み期間 14日間

家庭での二酸化炭素削減量の合計 300kg

(二酸化炭素) = (杉の木約20本が1年間に吸収する二酸化炭素の量)



そこで、愛理さんの学級では生徒30人で、「二酸化炭素300kgの削減」を目標とすることにしました。この学級の目標を達成するために、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みと削減量について調べました。

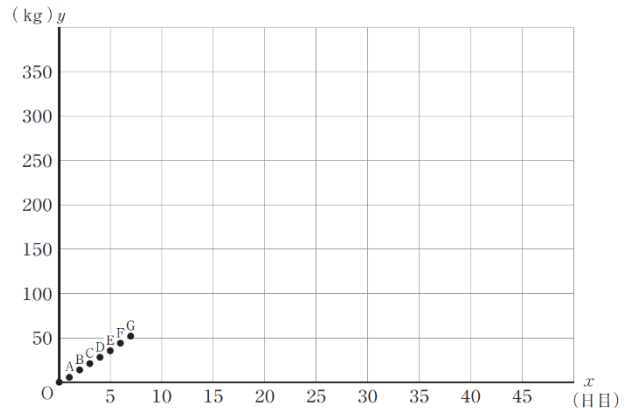
### 家庭でできる二酸化炭素削減の取り組み

取り組み	二酸化炭素削減量
冷房をつけている時間を1時間短くする。	25g
シャワーを浴びている時間を1分間短くする。	79g
部屋の電気をつけている時間を1時間短くする。	23g
テレビを見ている時間を1時間短くする。	23g
⋮	⋮

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ



このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

### <状況と課題>

日数と二酸化炭素削減量の合計の関係をグラフに表した際の点の並びが一直線上にあると考えることで、その関係を比例とみなして問題解決の方法を説明する本問の正答率は37.3%であり、無答率は24.2%と高い結果でした。また、解答の状況を見ると、24.8%の生徒が、直線のグラフをかくことや割合を求めることを利用することについて記述してはいるものの、それらを用いて問題の答えを導く方法を説明することに課題がみられました。

### ☆正答率 (%)

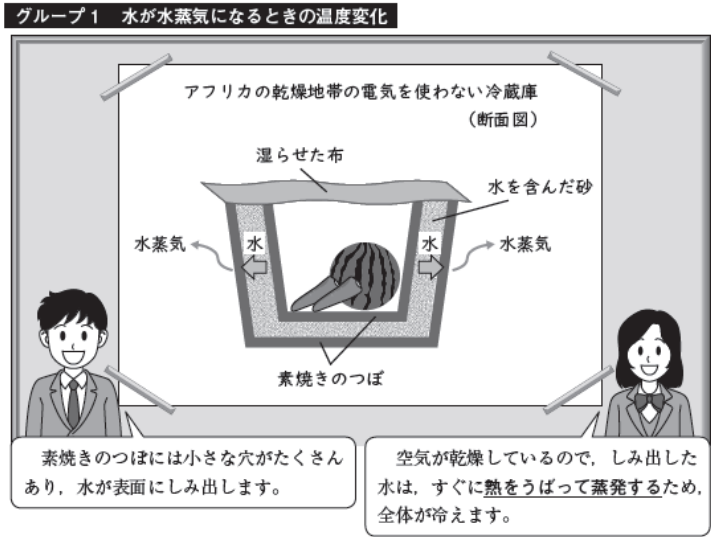
全国	38.4
本県	37.3
市町	
自校	

### <自身の授業改善のポイント>

7 (1) 知識を関連付けて理解する **重点課題**

・状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題です。

7 水の状態変化について科学的に探究したことを、2つのグループが理科の授業でポスター発表しています。



(1) 下線部としくみが同じ現象を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



<状況と課題>

液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかをみる問題です。正答率は、全国平均よりも1.9ポイント低い34.0%で、継続課題と捉えています。

解答の状況を見ると、熱の伝導や化学変化に伴う吸熱反応を状態変化に伴う温度変化と捉えている生徒（アまたはイを選択）が約3割、温度が下がることのみに着目している生徒（エを選択）が約3割と、状態変化に関する知識及び技能を身近な事象に活用することに課題があると考えられます。

☆正答率 (%)

全国	35.9
本県	34.0
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>



2 (3) 他者の考えについて、検討・改善する

・考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる問題です。

2

飛行機雲のようすを考察する場面



山本さん

日によって、飛行機雲がすぐ消えたり、長く残ったりします。なぜだろう。



先生

飛行機雲は、燃料の燃焼でできた水蒸気が凝結したものです。このことから何が関係していると考えますか。



山本さん

飛行機雲の残り方は、湿度と関係していると考えます。



中村さん

飛行機雲を撮影した日時の百葉箱の観測データを調べました。

百葉箱の観測データ			
日時	気温(℃)	湿度(%)	飛行機雲の残り方
10月 1日 13時	21.5	61	すぐ消えた
10月 15日 13時	20.3	61	長く残った

私は、このデータから、「湿度は関係していない」と考えます。

(3) 中村さんの下線部の考えに対して、どのように判断することが最も適切ですか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 観測データの気温が異なるので、「湿度は関係していない」と言える。
- イ 観測データの湿度が等しいので、「湿度は関係していない」と言える。
- ウ 湿度が異なる他の日を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

正答 **エ** 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

<状況と課題>

観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかを問う問題で、正答率は、全国平均よりも1.4ポイント低い27.1%でした。

解答の状況をみると、雲の発生と湿度の関係のみに着目している生徒（イまたはウを選択）が約6割と多く、考察の根拠としてその観測データを用いることが妥当かどうか検討して改善することに課題があると考えられます。

☆正答率 (%)

全国	28.5
本県	27.1
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

## 4 各市町の状況

(全国平均正答率以上の場合「+」表示)

校種	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
長崎市						
佐世保市						
島原市	+	+	+	+		
諫早市						
大村市						
平戸市						
松浦市						
対馬市						
壱岐市			+			
五島市						
西海市						
雲仙市						
南島原市						
長与町	+	+	+	+	+	+
時津町	+	+	+	+	+	
東彼杵町	+	+	+	+	+	+
川棚町						
波佐見町						
小値賀町						+
佐々町	+	+	+			
新上五島町	+	+	+	+		